

9/20
あひる

憲法9条は渡さない

東京 映画人らがシンポ

映画上映とシンポジウム「映画監督と時代」戦争法案を廃案に」が19日、東京都内で開かれ、立ち見も出る150人近くが参加しました。映画監督協会の有志による「自

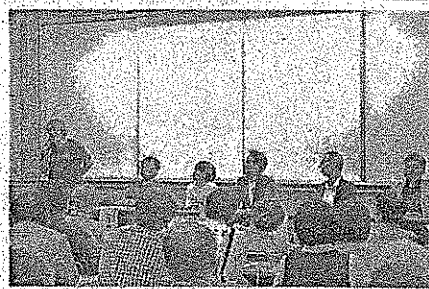
由と生命を守る映画監督の会」が準備を重ねて開催したもので、主催者代表の仲倉重郎監督が、「法案は成立してもあきらめてないよ、の宣言としてこういう会を開くことが

できてうれしい」と開会あいさつ。被爆の惨状を描いた関川秀雄監督の映画「ひろしま」(58年)を上映したあとのシンポジウムで、大林宣彦監督は「9月19日は、日本の歴史の

中で大変重要な忘れてはならない日です。ここから始まりです。私たちの声を聞く人を選ぶのが私たちの責任。憲法9条は、日本だけが持ち得る奇跡。引き渡してはいけない」と

語りました。

アニメーション映画監督の杉井ギサプローさんは「安保法制は戦



上映とシンポジウム「映画監督と時代」19日、東京・渋谷区

場に若い人を送るもの。ごうまんな政權をなんとかしなければ」と発言。「安保体制をやめないと日本は独立できない」(松原信吾監督)、「私たちは要求

し続け、憲法を守る不撓の努力を」(シールズの是恒香琳さん)、「アンチ安倍勢力が一つになってほしい」(小中和哉監督)などの声が続きました。